

## 高速道路、用水路に太陽光パネルの屋根化

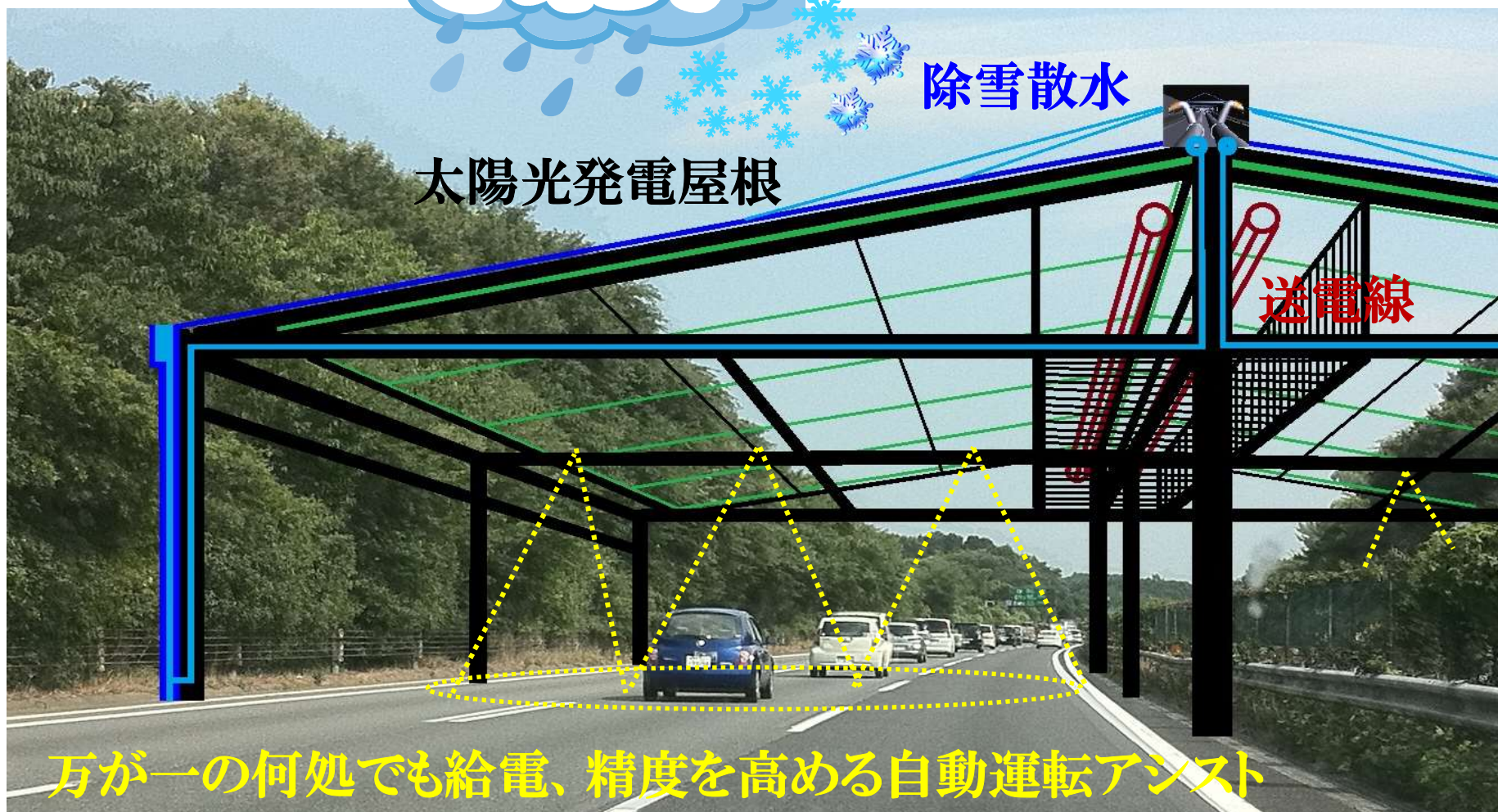
- 太陽光発電は売電制度と共に普及が拡大し、敷設する場所に課題が生まれてきた。特に山林を切り開いての施設は、現状の自然能力として光合成により酸素を得る、保水で山崩れを抑える等、役割を変えて発電場所にすることが地球温暖化に、差し引くプラスになるのか？ マイナスになるのか示されず不安だ。
- もう一つの場所は農業用地の転用です。令和元年度の日本の食料自給率は38%と依然と低く、改善の糸口は魅力ある農業計画を作り、生産者を増やし、遊休地を作らない、又は再利用する事が最低限必要だが、後継ぎがいない事などを理由にして遊休地を太陽光発電場所に行っていることが許されている。第三者が見れば魅力ない農業に見え自給率UPは望めない。いずれも国の方針であるが省庁間の連携不足が如実に表れている。これらの場所はやるべき場所がすべて終わってから足りない場合に許可される場所ではない。
- やるべき場所とは本来の目的で使う際に課題があり、太陽光発電を敷設することで改善が得られる場所である。例えば高速道路、豪雪や豪雨により障害が発生する可能性が高いが太陽光発電で屋根を作ることによってリスクが無くなる。しかも今後の電気自動車化ではどこでも給電できることは安心感が生まれる。また自動運転化が進む中で一番危ない時期は混在する時期で、屋根があれば頭上から位置や速度を把握できるため制御のアシストを双方に行うことが出来る。
- 用水路の上は日当たりが良いが、将来にわたり使わない空間です。太陽光発電向きの場所と言える。更に最近のドローンの配送路に使うことで過疎地への長距離安全輸送が可能になる。

# 自動運転、電気自動車化社会に向け高速道路に太陽光パネル屋根で 何処でも給電、自動運転アシスト、交通状況完全把握化へ

降雨、降雪によるスリップ、視界不良  
等の事故、渋滞の軽減



太陽光発電の送電線  
給電の同時普及



# 灌漑用水路上に太陽光パネル屋根化 でドローンの安定した長距離配送路確保

田んぼや畑の広がる空間には、太陽光発電に向く用水路がある  
太陽光パネルで屋根を作り、配電、給電網が同時に整備される  
同時にドローンの給電所、ジャンクションを作り事で過疎地の  
長距離自動運転化が可能となり安全と安心が生まれる

用水路＋太陽光発電＋送電＋ドローン空路＋給電所

